

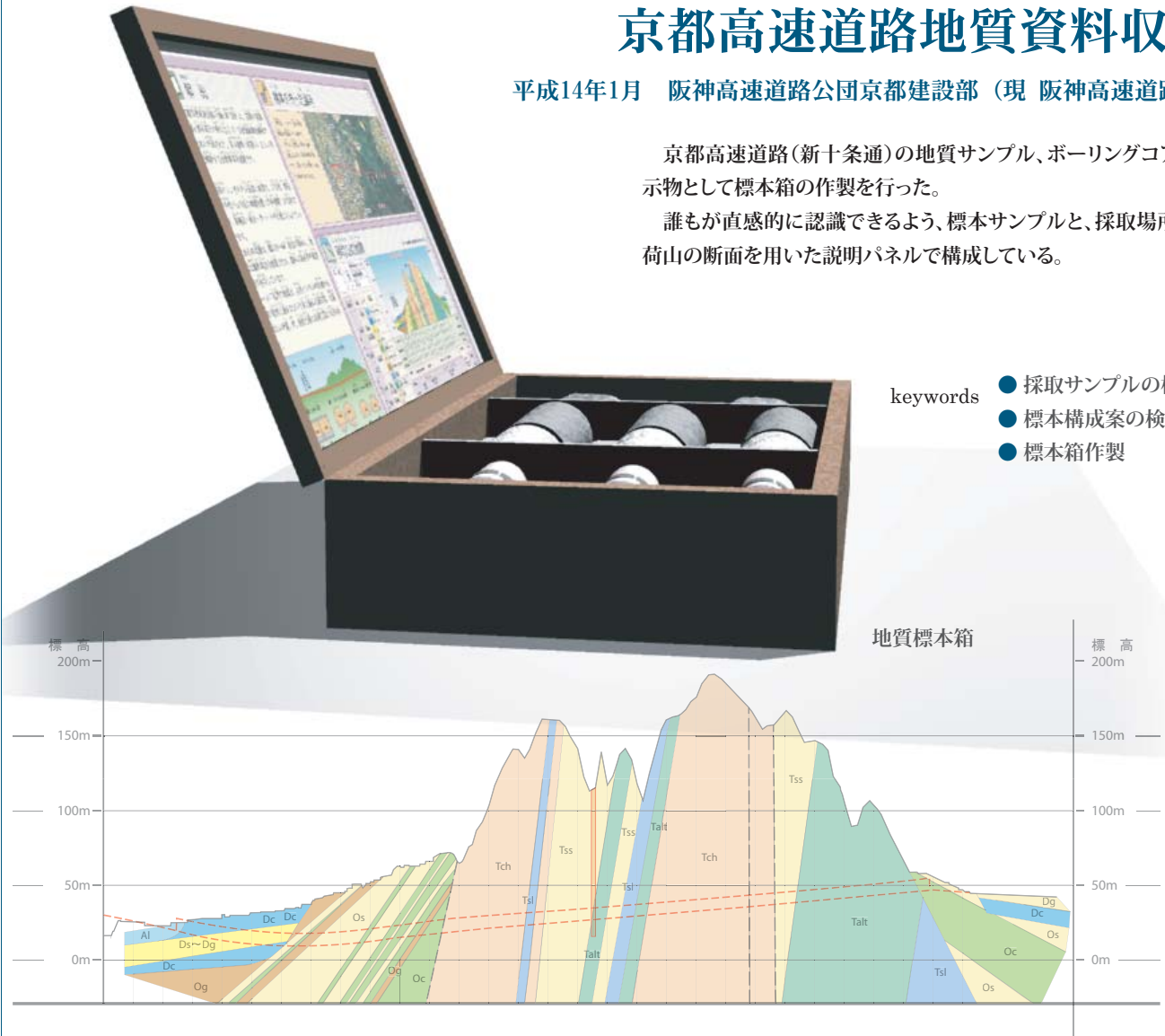
京都高速道路地質資料収集

平成14年1月 阪神高速道路公団京都建設部（現 阪神高速道路株）

京都高速道路（新十条通）の地質サンプル、ボーリングコアを展示物として標本箱の作製を行った。

誰もが直感的に認識できるように、標本サンプルと、採取場所や稲荷山の断面を用いた説明パネルで構成している。

- keywords
- 採取サンプルの検討
 - 標本構成案の検討
 - 標本箱作製



地質標本箱

解説

京都市道高速道路1号線（新十条通）は、京都市東部地域と都心部との間に生じている交通混雑を緩和するために計画された、東山連峰（稲荷山）をトンネルで横断する自動車専用道路です。

稲荷山トンネルの山岳部の地質は、古生代二疊紀～中生代ジュラ紀の堆積岩類（丹波層群）が主体であり、粘板岩・砂岩・チャート（珪質岩）の互層よりなっています。

これらの地層は、概ね40～60°程度に傾斜し、比較的良好的な地質ですが、いくつかの断層が存在しています。

シールド区間の地質は、山岳トンネルの西側から洪積の粘性土層およびレキ質土層の互層区間、大阪層群のレキ質、砂、粘性土層の互層区間に大別されます。

標本のあった場所

標本は、トンネル工事の時に稲荷山で採取したものです。今回は、各標本の採取場所を表しており、下記の地層の図では、どれぐらいの深さにあったのかが分かります。

稲荷山の地層

凡例

地層名	記号	構成物
丹波層群	T	粘板岩・砂岩・チャート
洪積層	A	粘土質シルト
大阪層群	O	粘板岩・砂岩・チャート
丹波層群	T	粘板岩・砂岩・チャート
洪積層	A	粘土質シルト
大阪層群	O	粘板岩・砂岩・チャート
丹波層群	T	粘板岩・砂岩・チャート
洪積層	A	粘土質シルト
大阪層群	O	粘板岩・砂岩・チャート

説明パネル